

囲 碁

茨城県高文連創立30周年を祝して

茨城県高文連創立30周年誠にありがとうございます。
高文連は大きな組織力を形成し、文化芸術の普及に貢献してきました。囲碁部会においても、この日本古来の素晴らしい文化である囲碁を普及させる上で高文連は重要な役割を果たし、今に至っています。特に一昨年は各文化部が協力し茨城開催の全国高等学校総合文化祭を大成功に導きました。今後も高文連の応援の下に囲碁の面白さをより多くの高校生に伝えたいと願っています。囲碁は19×19の盤上で白と黒が勝敗を争うゲームであり、覚えるとその奥深さに面白さが広がりますが、初心者にとって分かりにくいことや時間がかかるということもあります。それゆえ小中学校で囲碁を学んだ生徒の割合は少なく、高校で学ぶ生徒が大半です。そのため各学校で囲碁を普及させるには熱心な指導者の存在が欠かせません。その中心的存在となるのが事務局長です。私の前任の事務局長、原納優先生と私の後任の堀江信人先生は自身が高段者であり、生徒たちを全国レベルへと導きました。また現事務局長の河原井雅子先生は、少ない女子部

員の発掘と囲碁普及に貢献しました。

囲碁の普及には外部の方々の協力も大切です。長く高校生の棋譜を茨城新聞に掲載して頂いている南條浩昭氏やプロ棋士を派遣、指導して頂いている日本棋院の協力は絶大です。また、この20年間で対局方法にも大きな変化がありました。インターネットを通して見知らぬ遠くの人との対局が可能となり、今や多くの囲碁愛好者がネット碁を活用しています。また1999年から2003年に連載されたマンガ「ヒカルの碁」が大ヒットし、小中学生の囲碁ブームの火付け役となりました。

囲碁部会としては高文連の協力の下、今後とも囲碁文化の普及に努めて参りたいと考えております。課題は、囲碁を指導、普及させることができる先生が絶対的に少ないことです。対策として指導者の育成や外部指導者の活用、学校間連携等を通して多くの方々の協力を得ながら囲碁文化の普及継続を願うものです。

囲碁部会前部会長 豊崎利明

(H7～H14：事務局長、H23～H26：部会長)

平成26年度 第38回全国高等学校総合文化祭いばらき総文2014囲碁部門



「囲碁部門」(H26.7.30～31 県武道館)



実行委員の生徒を中心に、手作り記念品(缶バッジ)の制作などで「いばらき総文2014」を盛り上げました。右は男子個人で準優勝した今野遼平君(緑岡高校)



平成27年度 高等学校文化活動推進事業「(4回シリーズ) 高校生のための囲碁特別講座」



小中学生にも呼びかけ、受講生総数は65名に。
(H27.8.7 三の丸市民センター)



一般の囲碁愛好家と受講生が対局した「チャレンジ道場」。
(H28.1.5 水戸一高)



講師の溝上知親九段と河野貴至八段を囲んでの記念写真
(H28.1.5 水戸一高)